

武川彩香 リゾートホテル勤務

鎮西学院大学

現代社会学部外国語学科卒

現在私は、地元である長崎を離れ、沖縄県に就職をしました。就職先がホテルモントレ沖縄 タイガービーチというところで、主にアクティビティの受付をしています。その他には電話やネットからの予約の対応をしています。ビーチには観光客が多く、日本人問わず海外のゲストもたくさんいます。なので大学で主に英語を学んできた経験を活かすには、今の環境はとても学びに溢れた場所となっています。しかし、大学生の時は外国語学科に所属はしていたものの、3年生からは教職の授業がメインになったり、英語に触れる授業が極端に減ってしまったりと、仕事をしながらもっと英語力があればと思うことが多々あります。英語、中国語、韓国語、それ以外にも聞いたことのない言語を聞くと、何語を話しているのか、興味を持つ反面で、英語を話せない海外ゲストもいて、ビーチに楽しみに遊びに来ているのに、コミュニケーションが上手くとれずお怒りになって帰ってしまわれたり、がっかりさせてしまったりなど辞めたいと思うほど嫌になることもありました。ですが、今の職場にはどこが駄目だったのかをはっきり教えてくれる人やその後アドバイスをくれる人がいて、一緒に働いている人も場所も大好きです。

沖縄に就職をし、早いこと約半年が経とうとしていますが、学生と社会人の違いを痛感していることが1つあります。それは自分の時間を作ることが少し難しくなったことです。最初は仕事を覚えることに必死で、最近までは夏の繁忙期で毎日が忙しく、自分の趣味や資格等の勉強との両立が出来ていません。ですが私は今の、英語を身近に感じ、英語に毎日触れることが出来る環境で、英語はもとより地元の方の取り組みをもっと勉強をしたいと考えています。その経験がいつかは目標である教員になったときに必ず役に立てると思います。

私が今いる所は、沖縄県の恩納村というところで、そこは自然のサンゴを守ることに村全体で活動をしていて、地元の中学生は村の活性化に向け、生徒各自が考えた商品を自らで開発しているなど、地元間同士の連携が厚く、沖縄ならではの教育の在り方だと思います。今では観光客の増加に伴う、環境汚染が問題となっていますが、リゾート地としても有名な恩納村がありのままの自然を保っていることが出来るのは、一つに地元の方々の強い思いがあってこそだと、毎日海を眺めながら思います。地元のことを知り、地元のための活動を子どもたちが考える。改めて、学びの場がたくさんある環境だと思います。

大学4年生の時に参加した地域のボランティアで、小学生を対象とした「通学合宿」というのがあり、恩納村が行っているような取り組みとはまた違ったものですが、その通学合宿では、小学生の子どもたちが親元を離れ、地域の公民館などを利用し、約5日間子どもたち・大学生そして地域の方と共同生活を行います。そこでは、慣れない生活をするに不安を感じたり、時には衝突をしながらも、学年を超えて協力すること・助け合うことの大切さを学んでもらいながら、無事に合宿を終わらせる。合宿中はおもに大学生が主体

となって子どもたちのお世話を担当していましたが、子どもたちの元気溢れる顔を見たり、地域の方のアドバイス等を受けながら、私もたくさんのことを学ばせてもらいました。そして、また今年も通学合宿が開催されるということを聞きました。大学の先生、後輩から声をかけてもらっているのも、成長した子どもたちと会えることがとても楽しみです。このような学びの場を提供して下さる地域の方の思い、感謝をただ知るだけで終わらせたくはないです。必ず教員になって、子どもたちに伝えたいです。

当たり前のことですが、働いて稼いだ分で生活をしていくことの重みをつくづく感じます。私はとてもありがたいことに、奨学金をもらって大学に4年間通うことが出来、そこでたくさんのことを教わり、たくさんを経験をさせていただき、無事に大学を卒業することが出来ました。さらに、家族からの支援だけではなく、高校の時にお世話になった施設の院長先生・その他の先生方も卒院しても色々とお気にかけてくださったり、贈り物をしてもらったり、感謝の思いでいっぱいです。だからこそ、伝えたいことが1つあります。今奨学金をもらって勉強が出来る人、奨学金を貸してくれている人に、恥じない生活を送ってほしいということです。奨学金をもらって勉強ができることを当たり前とは思わず、その重みを知って、日々の勉学に取り組んでほしいと思います。私は高校生の時に、税の作文で児童養護施設のことを書いて、賞をもらったことがあります。そこには、税金で私たちの暮らしが出来ている、感謝していますと書きました。しかし実際には、本当にそう思っていたわけではなく、ただの文章として書いただけです。大学生の時にも、大学にしばらく行かない時期があったり、成績が悪かったりなどということがありました。生活スタイルの乱れが結果として出てしまっていました。悔しさ、恥ずかしさなどマイナスな感情でいっぱいでした。だからこそ、勉強できる環境がある今に、知識を増やしたり、大学でしか出来ない経験をたくさんしてほしいと思います。

最後に、私は、大学で過ごした4年間、本当にたくさんの貴重な経験をしてきました。それが出来たのも松園財団の奨学金をもらうことが出来たからです。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。教師になりたいという夢が出来たのも、あれをやりたい、これをやりたいなど希望も今はたくさんあります。だけどこの奨学金に合格できなければ、夢も希望も持つことはなかったと思います。大学の卒業式の日、大学に行くことを反対していた母から、「おめでとう」というメッセージが来ていました。4年間辞めずに通い続けて本当に良かったです。心の底から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

教員になることが出来たら、報告するので、待っていてください！